



レファレンスサービス

司書の重要な仕事の1つに、レファレンスサービスがあります。

レファレンスとは、図書館利用者の調べたいことや探している資料などの質問について、必要な資料・情報を案内するサービスです。図書の本の有無はもちろんのこと、関連資料の紹介や他の機関が所蔵する資料の探し方の案内、新聞記事や雑誌記事、論文などの探し方などを案内します。

司書は、「調べもの専門家」です。図書館にある本や雑誌・新聞から、データベースやインターネットで入手できる情報まで、さまざまな情報源の中から、利用者のニーズにあった情報を探し出し、提供するための技術を持っています。

「図書館に、自分の求める本があるかどうか」、「探しているテーマの本が、どこの書棚に並んでいるか」といったことから、知りたいことの「調べ方」についても司書に相談することができます。

レファレンスサービスを利用し、司書に相談することで、自分の調べたいことを明確にしたり、調べ方のヒントや別の見方に気が付いたりすることができます。また、自分にあった資料を得たりすることもできます。

本を探したい時や何かを調べたい時、困ったら、ぜひ近くの図書館を訪ねてみてください。きっと、必要とする本や役立つ情報を司書が紹介してくれることでしょう。

また、司書は以下のことに気をつけてレファレンスサービスを行っています。

○ 利用者が本当に知りたいことをきちんと把握する

相談者の多くは、大卒で質問してきます。特に子どもは、表現力が不十分な場合も多く、調べたいことが明確でない場合もあります。そこで、司書は、相談者との対話を通して、求めている内容を探っていきます。会話を通して、何を必要としているのかを特定していきます。

○ 利用者の必要とする情報の内容を考える

相談者の質問内容から、入門書的な資料でよいのか、専門的な資料を必要としているのか等、回答の内容を考えて準備に取り掛かります。

ただし、以下のようなご相談は、お受けできない場合があります。ご注意ください。

- ・ 学校の宿題、クイズ、懸賞問題に関する調査
- ・ 医療、投薬、健康の相談や法律相談
- ・ 人生案内、身の上相談
- ・ 美術品等の鑑定や市場価値調査
- ・ 文献の解説、翻訳、抜粋、抄録等の作成
- ・ 研究論文、レポート、系図等の作成
- ・ 人権やプライバシーの侵害にあたるような調査 等

<福井県立図書館のHP「覚え違いタイトル集」より>

『白い馬のホース』が読みたいという相談 → 「スーホの白い馬」を紹介
児童書で『リントロウとマンタロウ』を読みたい → 「忍たま乱太郎」を紹介

書籍化された「100万回死んだねこ 覚え違いタイトル集」としても刊行されていますが、司書のレファレンス能力が分かるホームページです。

文部科学省 子供の読書キャンペーン

～きみに贈りたい1冊～



文部科学省では、子どもの読書活動を推進するため「子供の学び応援サイト」に、特設ページ「子供の読書キャンペーン ～きみに贈りたい1冊～」を設けています。

この特設ページでは、教育、科学技術・学術、文化、スポーツの各分野で活躍する方のおすすめの本とメッセージを紹介しています。10月、12月、2月、4月の4回に分けて更新予定です。12月は、車いすラグビー選手の池 透暢さん、文化庁長官の都倉 俊一さん、教育系YouTuberのヨビノリたくみさんなど、9名の方のすすめの本が紹介されています。

<盛山 正仁 文部科学大臣からのメッセージ>

皆さんが勉強や部活動等、様々なことに向き合う日常の中で、自分の状況に思い悩む時があるかもしれません。あるいは、新しい世界を知りたい時、リラックスしたい時もあるかもしれません。

そんな時は、本の世界を訪れてみませんか？

読書を通じて、多くの知識を得られたり、先人の経験・生き方や多様な文化を知ることができたり、深く広い想像の世界の物語に心を動かされることもあると思います。

皆さんが夢中になれる本がきっとあると思います。

この度、教育、科学技術・学術、文化やスポーツの分野で活躍中の皆様から、中高生時代に読んでいた本や、最近読んで面白いと感じた本、影響を受けた本など、「きみに贈りたい1冊」を御紹介いただくとともに、皆さんへのメッセージをいただきました。

皆さんが、これから先、自らの学びや支えとなる本と出会い、将来に向かって進んでいただけるよう願っています。

令和6年が、はじまりました。今年も、子ども達が、本との素敵な出会いがあることを願っています。

<須藤>



2月のことと人

2.3 節分

今年は2月3日ですが、2025年、2029年の節分は、2月2日になります。節分は、季節の変わり目との意味があり、立春の前日が節分です。4年ごとのうるう年と同じように、立春も年によって日が調整されます。

2.11 建国記念の日

1966年(昭和41年)の「祝日法」改正により「建国をしのび、国を愛する心を養う」ことを趣旨とし、国民の祝日として制定されました。

やなせ たかし (1919.2.6~2013.10.13)

東京都生まれ。『アンパンマン』の生みの親として知られる。日本漫画家協会代表理事理事長。絵本作家・詩人。編集者や舞台演出家など様々な活動を行っていた。その他、「やさしいライオン」「チリンの鈴」などが有名である。

かがくい ひろし (1955.2.6~2009.9.28)

東京都生まれ。2005年に『おもちのきもち』で講談社絵本新人賞を受賞。2009年に54歳で急逝するまでの短い期間に、多くの作品を発表した。代表作『だるまさん』三部作シリーズはベストセラーである。

ヴィルヘルム・カール・グリム

(1786.2.24~1859.12.16)

ドイツ生まれ。言語学者・文学者、並びに童話・伝承の収集者。兄のヤーコプ・グリムとグリム兄弟として有名。グリム童話集には、ラプンツェル、シンデレラ、赤ずきん、ブレーメンの音楽隊等、有名なお話を収録。

エーリッヒ・ケストナー

(1899.2.23~1974.7.29)

ドイツ生まれ。1928年に発表した『エーミールと探偵たち』が好評で、次々と子供のための小説を執筆し、児童文学作家として世界的に有名になった。その他、「飛ぶ教室」や「ふたりのロッテ」が有名である。

図書館員のひみつの本棚 第 213 回

今月は優れた児童文学に贈られるカーネギー賞を受賞した作品です。

『荒野にヒバリをさがして』

アンソニー・マゴーワン／作 野口 絵美／訳 徳間書店 2022年 ¥1400(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年★☆☆ 中学生★★★★

高校★★★★ 一般★★★★

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

春先に鳴くヒバリを見るため、田舎へハイキングにいった兄弟と愛犬が、季節外れの大雪のために荒野で道を見失ってしまいます。遭難の恐怖の中で、失踪した母や、アルコールの問題を抱えた父のこと、恋人のことなど、幼少期からの出来事を回想する主人公。軽い知的障がいのある兄との絆は強く、お互いを支え合って生きている様子が描かれます。軽い掛け合いから始まる物語ですが、心ふるえるような結末が印象的です。

<子どもに手渡す時のポイント>

2020年、優れた児童文学に贈られるカーネギー賞を受賞した作品です。後半部分は、どういふ結末を迎えるかとハラハラして、一気に読むことができるかと思えます。たった1日の出来事を中心としたおはなしで、ページ数もそれほど多くないのですが、読みごたえは十分です。深い感動を味わえる作品として、ぜひ、紹介してください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。